

〔アジア拠点化・国際物流分野〕  
総合特別区域評価・調査検討会における評価結果

令和6年度

ハイパー＆グリーンイノベーション水島コンビナート総合特区

〔指定：平成23年12月、認定：平成24年9月〕

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 ※『-』とされている平均値については除外

4.3

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	企業間連携による用役コストの低減	159%	5
2	水島港の輸送効率改善による貨物取扱量	70%	3
3	企業集積によるコンビナートの成長と雇用の確保	401%	5

評価指標毎の進捗の評価の平均値

$(5 \times 2 + 4 \times 0 + 3 \times 1 + 2 \times 0 + 1 \times 0) \div 3 = 4.3$

4.3

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。  
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2) 数値目標3は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一致しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.3

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 ※『-』とされている箇所については平均値計算から除外

4.2

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

5.0

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.0

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.7

### Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見)

5.0

- ・評価指標(1)及び(3)、特に(3)は過年度に引き続き目標値を大きく上回る実績を挙げていることは評価に値すると思う。ただし、数値目標(3)-②水島地区における新規立地等による雇用創出数については、前期計画(平成29年度～令和3年度)においても300%を超える目標達成率を挙げていることから、設定目標が保守的とも言えるため、過大評価にならないよう留意すべきと考える。
- ・評価指標(2)については、一隻当りの貨物トン数は目標に対し30%下回ったが、おそらく船舶を対象とした規制緩和等の各種取組が功を奏した模様にて、入港船舶隻数が令和4年、令和5年対比20～30%増加していることから、実績にはおおよそ問題ないと思う。
- ・掲げられた3つの戦略のうち、戦略1「企業間連携による用役コストの低減」戦略3「企業間連携による用役コストの低減」については、想定以上の目標達成を示している。一方、戦略2「水島港の輸送効率改善による貨物取扱量」については進捗70%にとどまっている。戦略2は1隻当たりの輸送量の増加を目標値としたもので大変意欲的な目標設定であるが、バルク船の場合、そもそも1隻当たりの輸送量は荷主の経営判断によるところが大きいのと考えられ、港湾サイドの取組によって短期間の間に効果を発現するのは難しいのではないかと考える。この目標値については港湾の利便性向上に対して、企業が生産に関する意思決定の変更を行うための時間を考慮する必要がある、少し長い目で見て良いのではないかと考える。
- むしろ、戦略3については特殊事情がけん引した成果とのことで、来年度以降の効果発現に向けては工夫が必要であると思われる。バーチャルワンカンパニーでのオフガスやオフガスから生産された水素融通はCO2排出削減にも寄与するもので、今後の同地域の企業価値を高めるものと考えられる。(評価疲れになっては困るものの)環境指標も取り入れると、さらに同地域の価値が高まるのではないかと。
- ・評価指標(2)以外については目標数値を大幅に超えており、順調に進捗していると評価できる。
- ・しかしながら、評価指標(3)については、大部分が一つの既立地企業の大型案件によるものであり、継続して進捗していくための検討が必要と思われる。
- ・評価指標(2)について、貨物取扱量は回復したが、入港船舶隻数も増加しており、結果としてt/隻の実績値は下がってしまった。1隻当たりの貨物量が減った要因の分析が必要である。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

5.0

### 総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算  $(4.3+4.2+5 \times 2) \div 4 = 4.6$

4.6

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。